

第14回「日本語大賞」

テーマ 私が^{だいじ}大事にしている言葉

小学生の部 優秀賞 受賞作品

「清か水」

千葉県
湘南ゼミナール 南流山教室
小学六年 小林 正弥

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

ぼくは『サザンオールスターズ』が好きだ。特に『TSUNAMI』が好きだ。

今年の、油蟬がじりじりとうるさい季節。両親は一日中仕事で、ぼくは一人っ子。そのうえ夏休みなので、家のリビングで朝から晩まで一人で過ごした日だった。

昼時、やる事が何もなくなくなったので、昼食のカップラーメンに使うお湯を準備しながら音楽を聴くことにした。ぼくの家にはアレクサがいて「ヒット曲を流して」と言うと、毎回ランダムに壮快な音楽を流してくれる。非常に便利でよく使っている。ぼくは慣れた口調で「ヒット曲を流して」とアレクサに言った。今日はサザンオールスターズか。TSUNAMI。聴いたことがない。流れ始めると、爽やかな曲調と、歌っている人のねっとりとした声に、ぼくはすぐに虜になった。そして、もう少しでお湯が沸きそうな時、二番のサビに入っただ。その歌詞はまるで、ぼくに言い聞かせるようだった。「人は涙見せずに大人になれない」と聴いた瞬間、お湯が沸騰したのと同時に、ぼくの心を閉じ込めていた鉄格子が、粉々に砕け散った。

ぼくは、人前で泣くのが恥ずかしかった。だから悔しくて泣いたり、悲しくて泣いたり、うれしくて泣いたりすることが、だんだんと減っていった。次第に「涙を見せてはいけない」という考えが頭に住み着いていった。

そして、この歌を聴いた。

何の心構えもしていなかった故に、歌が一瞬、ゲシュタルト崩壊したけれど、すぐに形を取り戻し、ぼくはあることに気が付いた。人は泣かないと大人になれない、つまり、泣くことは大切。そう気付くと、強い魔法がすっと解けたように感じて、心も体も楽になった。今日、ぼくが物凄く成長した気がする。今までのぼくは声も届かない、遠い、遠い所にいる。

数日後、感動する映画を見て、涙した。隣にはすすり泣いている母もいた。ぼくの気持ちとはほとんどが喜びで、他は安堵と、かすかな照れだった。ぼくは、人前で泣いたのだ。あの歌のあの歌詞がなければ、歯を食いしばって涙を押さえ込んでいただろう。泣き終えると、すっきりとした気分だった。

ぼくはこの歌で、涙の大切さと、泣くことの心地良さを知れた。以前のぼくのように、必死になって瞳を乾かしている人を見つけたら、もったいない、と思う。その人は、涙の意味を知らない。

『TSUNAMI』は涙を「清か水」と表している。本当にその通りだと思う。

ぼくはその「清か水」をたくさん流して、大人になりたい。